

令和6(2024)年度 第2回 下都賀地区臨時採用教員研修会を開催しました

日 時：令和6(2024)年8月21日(水) 9:20~12:10

会 場：栃木市大平文化会館・大平公民館・大平勤労青少年ホーム

参加者：(1) 栃木県教育委員会採用の臨時採用教員及び非常勤講師の希望者
(2) 市町教育委員会採用の期限付き教員及び非常勤講師の希望者

1 研修内容について

- (1) 目的 ①学習指導、児童・生徒指導及び学級経営等について基礎的な指導力の向上を図り
自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
②臨時採用教員の任用に関することや、服務規律の確保に努めることなど、教員としての使命を自覚し、自己啓発に努める姿勢を養う。
- (2) 内容 ○講話・説明 ①「臨時採用教員の任用について」
②「本日の研修の進め方について」
○学習指導に関する講座、児童・生徒指導に関する講座(各6講座)

2 本研修で確認したこと

- (1) 臨時採用教員の任用について
○令和7年度臨時的任用希望調査(今後の予定)等について
○教育公務員としての心構え・服務について
・体罰及び言葉による暴力の禁止 ・交通法規の遵守
・わいせつ行為、ハラスメントの禁止 ・個人情報漏洩・流出の防止
・教育公務員としての身だしなみ(服装、髪型、アクセサリー等)
・SNS等による職務上知り得た情報の拡散、SNS等を利用した出会いの禁止
- (2) 本日の研修の進め方について
○本研修の目的の確認
○主体的に研修に参加するための心構え

3 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉から)

【第一部 学習指導に関する講座】

- 単元のゴールの設定の仕方について知ることができました。時には教科書どおりではなく、児童生徒の実態に応じて、変えていく必要もあることがわかりました。また、どうしたら子どもたちが学習に興味をもって進めることができるのかをグループで考えることができました。
- 算数では、習熟の早い児童が暇になってしまう傾向になりがちで、早く終わったらドリルなどの個人学習をして過ごすことが多いのが実際でした。それらの児童を生かしながら、他の児童を引き上げるように授業を考えていくことが大切だと感じました。また、知識技能のみにならないよう、なぜ答えがそうなのかという点について、自信をもって答えられる児童を育てていかなくてはと思いました。
- 児童が主体的に考える授業にするには、教員が意識すべき重要なポイントがあることを学びました。子どもに意見を出させたい、積極的に発言させたいときには、個人の活動からペアや全

体への流れをつくるなど、児童が自分の力で考えをまとめ、自信をもって発言できる環境をつくることが重要だと思いました。これはどの教科にも通するところがあり、今回の講座で学んだことを実践していきたいと思います。

- ICTを使った意見集めがとても印象的でした。児童がタブレットに慣れ、文字が打てるようになった際に授業で活用してみようと思いました。今回、器械運動の授業での困り感や指導の工夫の仕方などをたくさんの先生たちから聞くことができました。聞いたことも実際に取り入れるだけでなく、どんどん新しい取組にも挑戦していきたいと思いました。
- 言語活動はただ繰り返し言う、読むといった活動ではなく、互いの考えや気持ちを伝え合う活動を指すのであり、英語で自分のことを伝える、相手に質問・リアクションをする時にどう伝えるか考える時間が児童にとって大切であると学びました。考えて話すということができるよう言語活動を取り入れていきたいです。
- 道徳の授業をしています。いつもこの自分の教え方、考え方でいいのか悩んでいました。そのため、今回の講座がとても勉強になりました。特に学んだのは、「自分だったら」というように、自分に置き換えて考えるということです。そうすることで、より深く考えることができ、自分の生活との関わりのなかでも考えられるようになると感じました。

【第二部 児童・生徒指導に関する講座】

- 学級目標の重要性を学んだので、学級目標を児童とともに決め、目標に向かって成長していきます。また、教師としての考えや思いを児童に伝え、軸をもった指導を心がけたいです。
- 居心地のよい学級をつくるには、教師の立場からではなく、児童の立場から思いを考える必要があると分かりました。教師目線だけではなく、児童目線から物事を考えることも忘れずに、児童が安心して、そして楽しいと思えるような学級づくりをしていきたいと思います。
- 知識があってもその児童指導、それが未然に防ぐことにつながるということがわかりました。朝の声掛けを今以上に大切にして児童と関わっていききたいと思いました。また、何気ない朝の挨拶や健康観察から児童指導が始まっているのだと思いました。
- 講座を受講させていただき、様々な児童、生徒の顔が浮かびました。本当に大丈夫と言える子どもは一人もいないと思いました。教師は、活発な子、おとなしい子、真面目な子、様々な子どもがいる教室で、ぶれない指導を心がけ、一人ひとりに寄り添いながら、よりよい子どもとの関係を築いていくことが必要だと思いました。その為には、よく子どもを観察し、「あなたのことが大切です」とメッセージを送ることが大切であると学びました。
- 困難を感じている子どもの不安な気持ちや、焦りの気持ち、自分をコントロールする気持ちを感じることができたので、そのことを忘れず、今後も児童とかかわっていければと思います。
- ICTの活用について、他の学校の取組について交流しながら意見交換できたのでよかったです。取り組めるものからやってみたいと思います。また、講座の中で児童生徒の目線になってICTの活用を考えてみるという話がありましたが、どうしても教師目線で考えてしまい、児童生徒目線で考えるのが難しかったです。ICTの活用の仕方も児童生徒の目線になって考えていきたいと思いました。

